

第3学年2組 算数科学習指導案

場所 3-2教室

- 1 単元 あまりのあるわり算（本時6／8）
- 2 本時の目標
問題場面の余りの意味に着目し、余りを切り上げて処理する問題を理解し活用できる。
（思考・判断・表現）
- 3 課題を追求するための手だて
スクールタクトを利用し、他の児童の●の分け方と自身の分け方を比べる。

4 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (5)	1 問題を把握する。 ・長いすって脚で数えるんだ。 ・前はわり算だったけど、今回は何算なんだろう。 ・ $35 \div 4 = 8$ あまり 3 だよね。 ・前の問題はあまりも聞かれてた！	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の問題との相違点を聞く。 ・教科書の絵を用いて、問題把握を容易にする。 ・子供に立式させ、計算の答えを求めさせる。 ・問題文からわかること、聞かれていることを整理する。
課題 (1)	2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">わり算のあまりをどうすればよいのか考えよう</div>	
展開 (31)	3 余りをどのようにすればよいか考え、発表する。 ・残りの3人が座れないから、もう1ついると思うな。 ・答えに1を足せばいいと思う。だって、残りの3人が座れなくてかわいそうだから。 ・わり算の答えは8だから、答えも8だと思う。 4 教科書の適用題を行う。 ・11個のボールを2つずつだから、式は $11 \div 2 = 5$ あまり 1。5回だとボールが1個余るから… ・単位もわすれないようにしないと。	<ul style="list-style-type: none"> ・35個の●をノートに書き、4個ずつ分け、その様子を書いたノートを写真に撮り、スクールタクトに乗せるように指示する。 ・●は数図ブロックの代わりであることを伝え、書き方は35人を4人ずつ長いすに座らせたときの配置を考えて書くように伝える。 ・<u>全員がスクールタクトに上げられた写真と自身の考えを比べさせ、自身の考えとの違いを比べさせる。</u> ・児童全員が自分の考えを持った後、何人かの児童を指名し、自身の考えをテレビに映して説明する。 ・適用題を解くことが難しい児童には、●をノートに書き、問題を解くように伝える。 ・適用題を早く解くことが出来た児童には、教科書にある「もっと練習」を解くように伝える。
整理 (8)	5 本時の振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">いすに座れないあまりの3があるときは、答えを1ふやす。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを行う際には、「答えを1ふやす」という言葉を使うことを知らせる。 ・振り返りは、「あまり」「答えを1ふやす」と書いた児童を指名し、発表させる。

5 評価

問題場面の余りの部分に着目し、余りを切り上げる理由を説明できる。（思考力・判断力・表現力）